

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月24日現在

機関番号：54301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008年度～2011年度

課題番号：20320016

研究課題名（和文）近代日本における知識人宗教運動の言説空間—『新佛教』の思想史・文化史的研究

研究課題名（英文）The Discursive Space of an Intellectual Religious Movement in Modern Japan: a Study of the "Shin Bukkyo" Journal from the viewpoint of the History of Culture and Thought

研究代表者

吉永 進一（YOSHINAGA SHIN' ICHI）

舞鶴工業高等専門学校・人文科学部門・准教授

研究者番号：90271600

研究成果の概要（和文）：本研究では、仏教清徒同志会（新仏教徒同志会）とその機関誌『新佛教』に関して、基礎的な伝記資料を収集しつつ、多方面からモノグラフ研究を進めた。それにより、新仏教運動につながる進歩的仏教者の系譜を明らかにし、出版物、ラジオ、演説に依存する宗教運動という性格を分析した。新仏教とその周辺の仏教者によって、仏教の国際化がどう担われていたか、欧米のみならず他のアジア諸国との関係についても論証した。

研究成果の概要（英文）：In this research project we carried out a monographic study of the association called Bukkyō Seito Dōshikai (also known as Shin Bukkyōto Dōshikai) and its periodical, *Shin Bukkyō*. While gathering biographical data on its members, we conducted research from varying perspectives. In doing so, we made clear the genealogy of the progressive Buddhists connected to the Shin Bukkyō movement as well as analyzed its character as a religious movement that relied upon the written press, radio broadcasting, and public lectures. In addition, we examined how the globalization of Buddhism was realized by both core members and sympathizers through its relationship with not only Europe and the United States but also Asian nations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2010年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2011年度	2,000,000	600,000	2,600,000
	7,700,000	2,310,000	10,010,000

科研費の分科・細目 人文学・哲学・宗教学

キーワード：新仏教、近代仏教、高輪佛教大学、国際化、哲学館、自由討究、健全な信仰

1. 研究開始当初の背景

（1）近代仏教史研究において、『新佛教』とその発行母体である佛教清徒同志会（のちに新佛教徒同志会と改名。以下、新仏教運動と略記）の重要性は吉田久一、池田英俊などの研究者によって指摘されてきたが、モノグラフ研究は存在せず、その歴史的重要性に比して研究は立ち遅れていた。とりわけ精神主義や日蓮主義についての研究が出されてい

る中で、新仏教運動研究の遅れは目立っていた。

（2）近代仏教の見直しは2002年に発行された『思想』943号の特集「仏教／近代／アジア」前後より進んでいた。新たな問題関心は近代仏教の越境性という言葉で要約できよう。仏教の国際化という具体的な越境から、出版、社会教育、民俗学などのさまざまな分

野への越境という意味を含む研究代表者は、すでに平井金三の研究（科研課題番号16520060）を通して、仏教国際化の研究を進めており、その上で、平井と関係のあった新仏教徒同志会の重要性を認識していた。研究分担者の内、大谷栄一、安藤礼二の両名もそれぞれ、近代仏教とメディア、あるいは近代文学、民俗学の文脈から関心を寄せていた。これら3名の意見交換を経て、研究プロジェクトの発足に至った。

2. 研究の目的

(1) 新仏教徒同志会の会員ならびに関係者の伝記を含む基礎的な運動史の整理することで、今後の近代仏教研究の基盤を構築。

(2) 国際化、メディア、教育制度、宗教政策、アジアなど、可能な限り、多角的に新仏教徒同志会を研究することによって、新たな「新仏教」像を提示。

3. 研究の方法

(1) 伝記などの基礎研究は参加者で分担し、メーリングリストを活用して情報交換。

(2) いくつかのテーマについては、内部の研究會ならびに宗教学會でパネルディスカッションを行い、そのフィードバックを研究に反映させる。

4. 研究成果

(1) 上の3(2)にあるように、以下の5回のパネルを日本宗教学會で発表した。

①日本宗教学會第67回学術大会パネル(2008年9月15日、筑波大学)『新佛教』の言説空間、その宗教史・文化史的意味(代表者:吉永 進一)

②日本宗教学會第68回学術大会パネル(2009年9月13日、京都大学)「明治仏教の国際化と変貌」(代表者:吉永 進一)

③日本宗教学會第68回学術大会パネル(2009年9月13日、京都大学)「明治仏教史を上書きする」(代表者:大谷 栄一)

④日本宗教学會第69回学術大会パネル(2010年9月4日、東洋大学)「近代仏教/メディア/大学」(代表者:吉永 進一)

⑤日本宗教学會第70回学術大会パネル(2011年9月4日、関西学院大学)「アジア/戦争/新仏教」(代表者:大谷 栄一)

以上によって、本プロジェクトの主たるテーマについて、研究者からの建設的意見を得ることができた(発表題目については別掲の学会発表の項を参照)。

(2) 別掲の発表論文、学会発表、単行本に加えて、最終年度に電子版の研究報告書を発行し、研究者に配布している。そこに収録された題目と執筆者は以下の通りである。

01 新仏教とはなにものか?——「自由討究」

と「健全なる信仰」 吉永進一

02 新仏教徒とは誰か 高橋 原

03 オルコット去りし後——世紀の変わり目における神智学と“新仏教徒” 吉永進一

04 神智学とユニテリアンと仏教をめぐる年表(作成・吉永進一)

05 高島米峰と丙午出版 大谷栄一

06 丙午出版社出版目録(作成・大谷栄一)

07 高輪仏教大学と万国仏教青年連合會 岩田真美

08 交錯する霊性——折口信夫と『新仏教』 安藤礼二

09 加藤咄堂と仏教演説——近代日本における「修養論」の系譜—— 岡田正彦

10 鈴木大拙・井上秀天の海外経験の意義 守屋友江

11 明治仏教と中東イスラーム世界の接点——雑誌『新佛教』の論説から—— 大澤広嗣

12 中国近代仏教における日本新仏教運動の影響——『海潮音』、『南瀛佛教』を中心に—— 梁 明霞

13 “Rational Religion” and the Shin Bukkyo [New Buddhism] Movement in Late Meiji Japan

星野靖二

14 『新佛教』関係人物データ集(編集・碧海寿広、高橋 原)

(3) 以上の報告書ならびに5の論文等にて、以下のような知見を発表することができた。

①反省會運動、中西牛郎、仏教青年運動、古河老川、新仏教運動と続く、思想と組織、人脈の系譜を検証。

②教条や明確な組織体を欠いた新仏教運動の宗教運動としての特殊性と、その参加者の社会的背景や思想、メディア使用に見られる知識人宗教的な性格。

③新仏教運動の重要人物であった高島米峰と丙午出版社に見られる、出版や大学と近代仏教運動との関係。

④近代仏教の国際化の諸相を、神智学の影響、海外経験の意義、海外仏教者との連携、イスラームなど他宗教の研究、中国などのアジア諸国との関係という点において検証。

⑤新仏教運動と並行する西本願寺内の進歩的仏教者の系譜と高輪佛敎大学の重要性、ならびにその思想的後継者となる龍谷大学内部の国際的仏教者の存在。

⑥仏教演説からラジオ講話に至る新仏教運動における声の文化の重要性。

⑦折口信夫の文学、民俗学と新仏教運動との影響。

以上まとめたように、全体としては、今回のプロジェクトは今後の新仏教運動研究の基準点となるものである。従前明らかでなかった史実で、今回発掘できたものは多く、近

代仏教史に一定の貢献ができたかと思う。また継続的にパネルを開き、研究会を開催することで、若手や他分野の研究者に刺激を与え、近代仏教史研究の活性化にも貢献できたかと自負している。

(4) 今後の展望

①今後の展望については、まず必要とされるのは伝記的資料の拡充である。無名の人物も多く筆名も多いために、これは際限がないにしても、さらなる調査は必要であろう。

②今回の研究では境野哲、杉村楚人冠などの主要会員についての掘り下げが十分でなかったため、今後はそのような研究が求められよう。

③新仏教運動の仏教思想について汎神論と呼ばれるが、これについてはその由来から、その広がりについて、知識人の中で優勢であった一元論的な宇宙論との関係でさらに研究されるべきである。

④政府の宗教政策や植民地政策との関係の中で、新仏教運動は進歩的な立場から保守的な立場へ「変化」したように見えるが、この変貌の内容については検証が必要であり、それはまた宗教と政治や法制度の関係についての新たな知見をもたらすと思われる。

⑤国際化や高輪佛教学大学に関連しては、さらなる調査研究が必要であろう。高輪佛教学大学に関連して櫻井義肇と高楠順次郎の研究が必要であり、高輪派の思想的後継者としては大正以降に活動した宇津木二秀と彼が協力したウィリアム・マクガヴァンなどの外国人仏教者について研究調査が必要であろう。

以上を視野におさめながら、今回の報告書をもとに論集の執筆と出版を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

1. 吉永 進一、近代仏教史における鈴木大拙、宗教哲学、査読無、29号、2012年、11～23頁
2. 岩田 真美、近代移行期における真宗僧の自他認識—超然の排耶論を中心に—、武蔵野大学仏教文化研究所紀要、査読無、28号、2012年、1～19頁
3. 大谷 栄一、アジアの仏教ナショナリズムの比較分析、国際研究集会報告書「近代と仏教」(国際日本文化研究センター)、査読無、41号、2012、113～129頁
4. 吉永 進一、オルコット去りし後—世紀の変わり目における神智学と“新仏教徒”、国際研究集会報告書「近代と仏教」(国際日本文化研究センター)、査読無、41号、2012、77～92頁

5. 吉永 進一、大澤 広嗣、中川未来、国際派仏教者、宇津木二秀とその時代、舞鶴工業高等専門学校紀要、査読無、46号、2011、81-95頁

6. 星野 靖二、明治中期における「仏教」と「信仰」—中西牛郎の「新仏教」論を中心に、宗教学論集、29、2010、33～60頁

7. 大谷 栄一、明治期日本の『新しい仏教』という運動、季刊日本思想史、査読無、75号、2009年、14～35頁

8. 大谷 栄一、近代日本仏教史研究の方法論、佛教学報(東國大佛文化文化研究院)、査読無、50輯、2008、21～47頁

[学会発表] (計 18 件)

1. 大谷 栄一、近代日本仏教史研究における〈アジア〉と〈戦争〉、日本宗教学会第70回学術大会パネル、2011年9月4日、関西学院大学

2. 高橋 原、東アジア世界に対する新仏教徒の視線」、日本宗教学会第70回学術大会パネル、2011年9月4日、関西学院大学

3. 守屋 友江、新仏教徒の戦争観、日本宗教学会第70回学術大会パネル、2011年9月4日、関西学院大学

4. 岩田 真美、高輪仏教大学と万国仏教青年連合会、日本宗教学会第69回学術大会パネル、2010年9月4日、東洋大学

5. 安藤 礼二、櫻井義肇と雑誌メディア—『新公論』を中心に—、日本宗教学会第69回学術大会パネル、2010年9月4日、東洋大学

6. 大谷 栄一、丙午出版社と近代仏教出版文化、日本宗教学会第69回学術大会パネル、2010年9月4日、東洋大学

7. 吉永 進一、『観客』から『弟子』へ—大乘協会と欧米仏教徒たち—、日本宗教学会第69回学術大会パネル、2010年9月4日、東洋大学

8. 吉永 進一、明治20年代仏教界における神智学をめぐる言説、2009年9月13日、京都大学

9. 高橋 原、明治期仏教とユニテリアニズム—佐治實然を手がかりに—、2009年9月13日、京都大学

10. 安藤 礼二、エリザベス・アンナ・ゴルドン夫人をめぐる、2009年9月13日、京都大学

11. 守屋 友江、鈴木大拙における東洋と西洋—在米中の思想変遷を中心に—、2009年9月13日、京都大学

12. 星野 靖二、“仏教”を“演説”する、日本宗教学会第68回学術大会パネル、2009年9月13日、京都大学

13. 岡田 正彦、演説・講演というメディアと近代仏教—啓蒙から修養へ—、日本宗教学会第68回学術大会パネル、2009年9月13日、

京都大学

14. 岩田 真美、前田慧雲と「自由討究」—本願寺教団の対応と宗学研究法—、日本宗教学会第 68 回学術大会パネル、2009 年 9 月 13 日、京都大学

15. 大谷 栄一、高嶋米峰と丙午出版社、日本宗教学会第 68 回学術大会パネル、2009 年 9 月 13 日、京都大学

16. 吉永 進一、古河老川の仏教論、日本宗教学会第 67 回学術大会パネル、2008 年 9 月 15 日、筑波大学

17. 星野 靖二、『新佛教』と「信仰」、日本宗教学会第 67 回学術大会パネル、2008 年 9 月 15 日、筑波大学

18. 安藤 礼二、毛利清雅と『新佛教』、日本宗教学会第 67 回学術大会パネル、2008 年 9 月 15 日、筑波大学

〔図書〕(計 6 件)

1. 大谷 栄一、ペリカン社、近代仏教という視座、2012、全 294 頁

2. 星野 靖二、リトン、スピリチュアリティの宗教史・下巻、2012 年、419~446 頁

3. 守屋 友江、筑摩書房、『禅に生きる 鈴木大拙コレクション』、2012 年、413~428 頁

4. 安藤 礼二、講談社、場所と産霊、2010、全 294 頁

5. 岡田 正彦、ブイツーソリューション、忘れられた仏教天文学——19 世紀の日本における仏教世界像、2010、全 306 頁

6. Tomoe Moriya, University of Hawaii Press, *Hawaii at the Crossroads of the U.S. and Japan before the Pacific War*, 2008, pp. 192-216

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.maizuru-ct.ac.jp/human/yosinaga/index.html>

(以上の URL より PDF 版報告書のダウンロード可能)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉永 進一 (YOSHINAGA SHIN'ICHI)

舞鶴工業高等専門学校・人文科学部門・准教授

研究者番号 : 90271600

(2) 研究分担者

安藤 礼二 (ANDO REIJI)

多摩美術大学・美術学部・准教授

研究者番号 : 20445620

岩田真美 (IWATA MAMI)

龍谷大学・文学部・講師

研究者番号 : 90610642

(2011 年度)

大澤 広嗣 (OSAWA KOJI)

研究者番号 : 10408990

文化庁・宗務課・専門職

(2008 年度より 2009 年 9 月まで。その後は研究協力者)

大谷 栄一 (OTANI EIICHI)

佛教大学・社会学部・准教授

研究者番号 : 03859620

岡田 正彦 (OKADA MASAHIKO)

天理大学・人間学部・教授

研究者番号 : 00309519

高橋 原 (TAKAHASHI HARA)

東京大学・人文社会系研究科・助教

研究者番号 : 30451777

星野 靖二 (HOSHINO SEIJI)

國學院大学・研究開発推進機構・助教

研究者番号 : 50453551

(2008 年度から 2010 年度まで)

守屋 友江 (MORIYA TOMOE)

阪南大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号 : 30340847

(3) 連携研究者

()

研究者番号 :

(4) 研究協力者

碧海寿広 (OMI TOSHIHIRO)

宗教情報リサーチセンター

江島尚俊 (EJIMA NAOTOSHI)

大正大学・総合仏教研究所・研究員